

勝浦で最古級恐竜化石

1億3000万年前

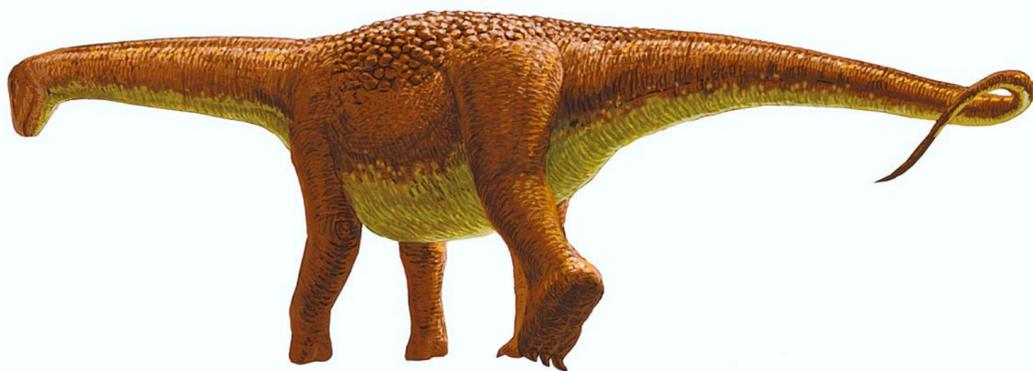
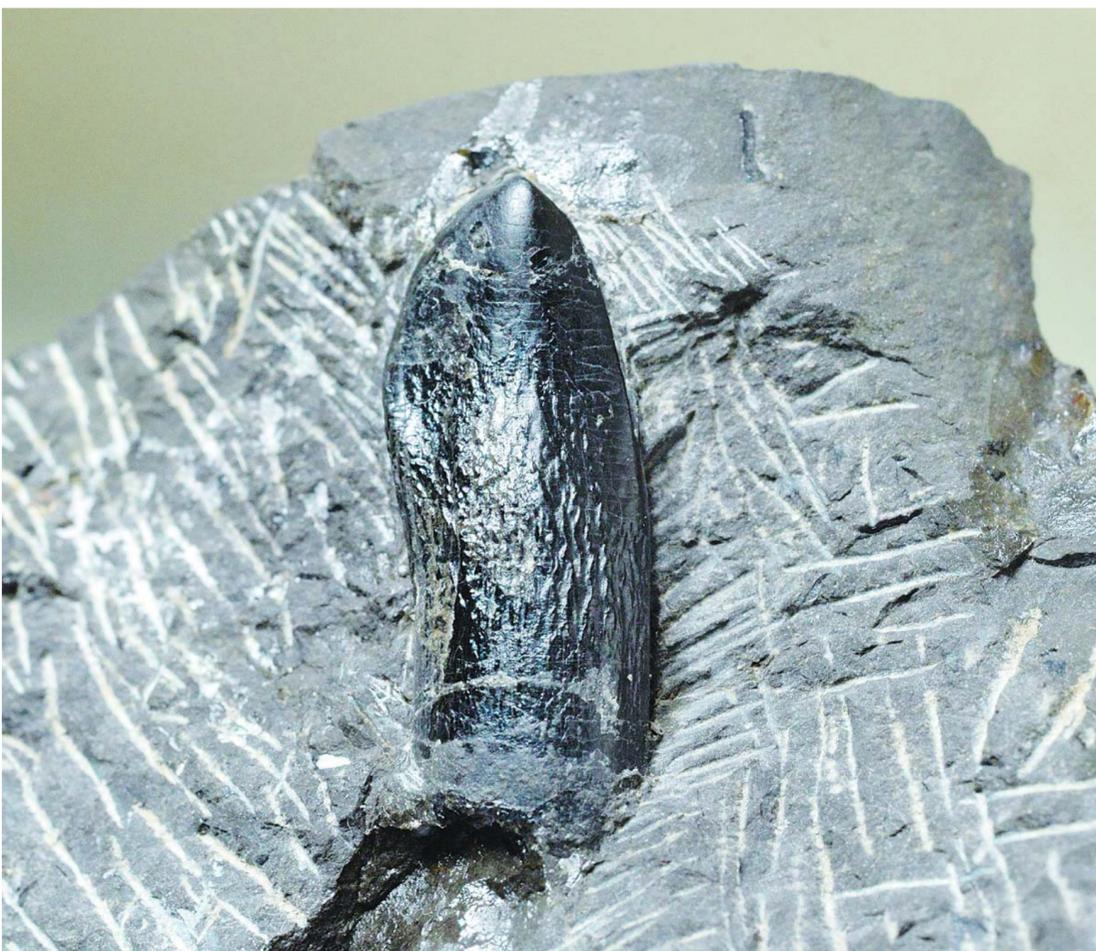
阿南の親子が発見

徳島県立博物館は9日、勝浦町にある前期白亜紀（約1億3000万年前）の地層から、国内最古級となる竜脚類の草食恐竜ティタノサウルス形類の歯の化石が見つかったと発表した。四国で恐竜化石が確認されるのは1994年に勝浦町で見つかったイグアナドン類の歯以来2例目で、竜脚類は初めて。

歯は高さ2・3センチ、幅1センチ。鑑定した県立博物館と福井県立恐竜博物館によると、スプーンのような形や大きさが、福井県で見つかった同形類のフクイティタンと似ていることから、体長10メートル前後の同形類の歯と推定した。

発見者は、阿南市上中町中原の会社員田上浩久さん（48）と長男で阿南第一中学校2年の竜熙さん（14）。7月3日に植物化石を採集している時に見つけた。

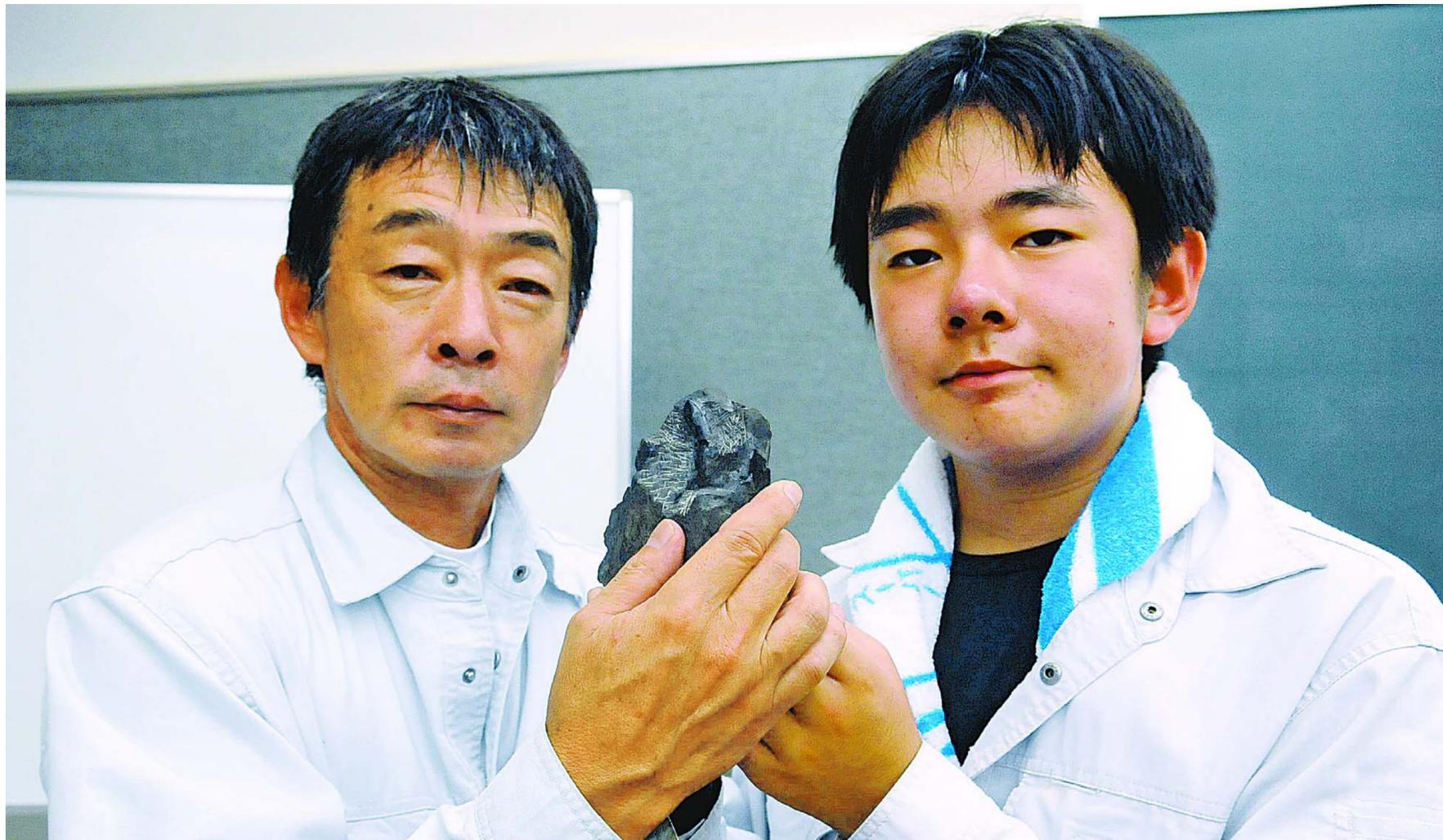
8月10日～9月25日に県立博物館2階常設展示室で公開される。8月31日までは観覧無料。（佐藤亮）



【上】勝浦町で見つかったティタノサウルス形類の歯化石
【下】ティタノサウルス形類の生体復元図（イラスト・山本匠）

いずれも県立博物館提供

発見したティタノサウルス形類の歯の化石を手にする田上浩久さん[㊟]と竜熙さん親子＝県立博物館



勝浦で最古級恐竜化石発見

ティタノサウルス形類か



県立博物館に展示されているティタノサウルス類の全身骨格標本の複製（同館提供）